

指示があるまで、このページをよく読んで待ちなさい。指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。

I 受験に際しての注意

- 1 問題用紙は1ページ（表紙を除く）から十七ページまでである。
- 2 問題の内容についての質問には、いつさい応じない。それ以外のことがらについて尋ねたことがあれば、手をあげて監督者に聞くこと。
- 3 監督者の「はじめ」の合図で始め、「やめ」の合図ですぐやめること。
- 4 解答用紙が折れ曲がったり、破れたり、汚れたりした場合には、手をあげて監督者に申し出ること。

II 解答記入上の注意

- 1 すべてマーク方式で解答を記入すること。
- 2 マークは必ずHBの黒鉛筆を使用して記入すること。ボールペン、万年筆、サインペン等を用いてはいけない。
- 3 答えは、すべて各問題の指示にしたがって解答欄にマークすること。
- 4 一度マークしたものを訂正するときは、プラスチック消しゴムで完全に消してからマークしなおすこと。消して出たカスはきれいに払っておくこと。
- 5 次の場合は、いずれも誤答となるから特に注意すること。
 - (1) マークの仕方が悪かった場合。（特にマーク欄が塗りつぶされていなかったり、外側に少しでもはみ出した場合）
 - (2) 問題が要求している以上に余分な答えをマークした場合。
 - (3) マークすべきところ以外に印をつけたり、汚したりした場合。特に枠内は絶対に汚さないこと。
 - (4) 訂正の場合の消し方が不十分な場合。

III 氏名等の記入上の注意

- 1 問題用紙と解答用紙の両方の所定欄に、漢字で氏名を、算用数字で受験番号をそれぞれ記入すること。
- 2 解答用紙の左側にある受験番号をマークすること。

氏 名

受験番号

一 次の各問いに答えなさい。

問一 漢字の読みの間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 遵守（そんしゅ） ② 廉価（れんか）
③ 卓越（たくえつ） ④ 穩便（おんびん）

問二 「事件のガイ略を説明する」の傍線部の漢字として正しいものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 概 ② 慨 ③ 該 ④ 効

問三 送り仮名の間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 納める ② 備える ③ 謝まる ④ 退ける

問四 四字熟語「夏炉□□」を完成させるのに正しいものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 春風 ② 夏夢 ③ 秋霜 ④ 冬扇

問五 「服」の部首を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① ふくへん ② ふなづき
③ つきへん ④ にくづき

問六 対義語の関係の組み合わせとして間違っているものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 利益—得失 ② 興隆—衰亡
③ 栄転—左遷 ④ 専任—兼務

問七 「石橋を叩いて渡る」と同じ意味のことわざを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 転ばぬ先の杖 ② 絵に描いた餅
③ のれんに腕押し ④ 泣きつ面に蜂

問八 「行動・考えが型にはまっていて同じ様であること」という意味の外来語として正しいものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① アイデンティティ ② ステレオタイプ
③ プロセス ④ アウトライン

問九 『たけくらべ』を著した作家名として正しいものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 与謝野晶子 ② 樋口一葉
③ 平塚らいてう ④ 紫式部

問十 □に動物を表す漢字が入らないものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 立つ □ 後をにごさず ② 木によりて □ を求む
③ □ 百まで踊り忘れず ④ 火中の □ を拾う

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

最近ではヨーロッパの鉄道旅を紹介するようなテレビ番組は多い。

ヨーロッパを旅すると、車窓に広がる牧歌的な風景の美しさにはため息が出る。

そんな風景に見慣れてから、日本に帰国すると、^①本当にガツカリさせられる。飛行機から見る風景も、車窓から見える風景も、とにかく

日本はごちゃごちゃしていて猥雑^{わいざつ}なのだ。

しかし……と私は思う。

これこそが、日本の田んぼのすごさを物語っているように思えるのである。

ヨーロッパの農村風景を見ると、広々とした畑が広がり、その遠くに家々が見える。

しかし、この風景の成立した背景を考えると、昔は、この小さな村の人たちが食べていくために、これだけ広大な農地が必要だったということでもある。

一方、日本では田畑の面積が小さく、そこら中に農村集落がある。つまり、少ない農地でたくさんの人たちが食べていくための食糧を得ることが可能であったということに他ならない。

ヨーロッパは土地がやせていて、土地の生産力が小さい。

A、ヨーロッパの中でもムギを作ることができたのは恵まれた土地である。

やせた土地では、ムギを作ることではできなかった。そのため、牧草を育てて、家畜を育てたのである。

さらには、土地の生産力の違いに加えて、ムギとイネという植物の違いもある。イネはムギに比べて、収穫量の多い作物なのである。

また、収量の多いイネは生産効率も良かった。

ヨーロッパでは主にコムギやオオムギなどのムギ類が栽培されるが、一五世紀のヨーロッパでは、播いた種子の量に対して、三〜五倍程度の収量しか得ることができなかった。一方、日本ではイネが栽培されるが、同じ一五世紀の室町時代の日本では、イネは播いた種子の量に対して二〇〜三〇倍もの収量が得られたのである。

化学肥料が発達した現在と比較しても、コムギは播いた種子の二〇倍前後の収量であるのに対して、イネは一一〇〜一四〇倍もの収量がある。イネは生産力がずば抜けて高いのである。

イネとムギ類とは栽培されている環境や土地も異なるし、栽培技術も異なるから、単純な比較はできないが、イネが多くのお食糧を生み出してきたことは間違いない。

実際に、現在でも、世界の人口密度が高い地域は、稲作地帯と一致する。イネを作ることはいくくの人口を養うことを可能にするのである。

田んぼで展開される稲作は、世界がうらやむような農業だったのである。^②

一八世紀、江戸時代中期の江戸の町の人口はすでに一〇〇万人を超えていた。これは当時、世界一の人口の大都市であったとされている。大都市であるロンドンやパリが四〇万都市だったから、江戸の方がずっと人口が多かったのである。

世界一の人口と簡単に言うが、^③たくさんの人が集まるのには、色々な条件が要る。

人は誰しも腹が減る。日々、一〇〇万人の人々の腹を満たしていかなければならないのである。これは、日本の食糧生産の豊かさによって可能になったのである。

日本は広大なヨーロッパ大陸に比べると、平野が少なく国土が狭い。しかし、一六世紀、戦国時代の日本では、同じ島国の英国と比べて、すでに六倍もの人口を擁していたとされている。さらに江戸時代の日本には、すでに二〇〇万〜三〇〇〇万人の人口がいた。これ

は、日本では狭い農地でも、十分な食糧を得ることができたからに他ならない。

日本の過密な人口は、「田んぼ」というシステムと、「イネ」という作物によって支えられてきたのである。

教科書では、日本の農業は、欧米に比べて農家一軒あたりの経営面積が小さいと習う。

確かに、現代では、規模を拡大した農業経営が求められている。 B、日本の農家の経営面積が小さいという理由には、もともと

農業の質が違うという面もある。

前述のようにヨーロッパの農地はもともと生産性が低い。そのため、収量を上げようとすれば、農地の面積を広げるしかない。

狭い土地では、どんなに頑張っても収量は増えることなく、それよりも少しでも土地を広げる方が良く、やせた土地であれば、そこにウシを放して、一頭でも多く飼う方が良く。そのため、ヨーロッパでは伝統的に土地を広げ大規模にする努力がなされ、面積を広げた代わりに一つ一つの農地には手をかけない粗放的な農業が伝統的に発達した。

一方、日本では土地の潜在的な生産性が高い。^④

手をかければかけるほど、収量は増える。同じ田んぼを工夫すれば、イネとムギの両方を作ることさえ可能だし、畑でも手をかければ、さまざまな野菜や作物を栽培することができる。

そのため日本では、^⑤やみくもに面積を広げるのではなく、限られた面積の中で、いかに手をかけて、収量を増やすかに努力が払われてきた。ていねいに手をかけていけば、限られた労力では、農地の面積を増やすことに限界がある。こうして、日本では伝統的に小規模で集約的な農業を発展させてきたのである。

欧米の農業は広く広くと横方向に発達をするのに対して、日本の農業は深く深くと縦方向に発達を遂げてきた。ちなみに日本人は欧米人に比べて内向的^⑥と言われるが、もしかすると限られた農地の中で内向きに展開する農業が関係しているのかも知れない。

これまで紹介してきたように、世界の農業は環境を破壊していく。

農業は水資源を奪い、豊かな土地を荒廃させる。農業を行った土地は砂漠化し、人々は新たな農地を作るために、豊かな森林を破壊する。

これに対して、日本の水田は、豊かな水資源に恵まれて、豊かな自然の恵みを享受している。そして、世界の農業に比べて高い生産力を誇っているのである。

それなのに……日本の田んぼを見渡してみるとどうだろう。

⑦ 日本の田んぼではイネが作られていない。耕作放棄地となつてただ荒れ果てて雑草まみれになっている田んぼもある。

田んぼを耕し、イネを作る人は年々減つて、荒れ果てた田んぼは年々増えている。

C、問題は単純ではない。日本人の米の消費量は減っているから、米は余り、米の価格は下がっている。外国からは安い米が輸入されてくるし、外国に輸出するのにはコストがかかる。その結果、イネを栽培する人は減っているのだ。

問題は単純ではない。それは十分にわかっている。

しかし、世界の人が日本の田んぼを見たらどう思うだろう。

人口は増え続け、農地は庄トウ的^⑧に足りない。食糧不足で飢えている人々が八億人以上もいると言われている。世界の人口の一〇人に一人だ。水資源も足りない。異常気象による不作も続いている。

それなのに、水資源に恵まれ、高い生産力を誇る日本の農地が使われずに荒れ果てているのだ。かつて手入れの行き届いた日本の美しい里山の風景は、日本を訪れた外国人たちを驚嘆させた。しかし、今飢餓に苦しむ世界の人々がこの風景をみたら、どう思うことだろう。縄文時代に稲作が日本に伝えられて数千年。現在、日本の田んぼはもつとも荒れ果てた状態にあると言われてさえるのである。

（稲垣栄洋『イネという不思議な植物^{ふしぎしよくぶつ}』）

問一 ① 本当にガツカリさせられると筆者が考えるのはなぜか。最も適切なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 日本の鉄道旅を紹介する番組ができなさそうだから。
- ② 飛行機から見る夜景は素晴らしいが、昼間の景色には魅力がないから。
- ③ 日本の田んぼのすごさに気がついていない人が多いから。
- ④ 欧州に比べて日本の風景が雑然として見えるから。

問二 ② A C に当てはまるものを次より選び、それぞれ番号をマークしなさい。

- ① しかし ② もちろん ③ もし
- ④ しかも ⑤ たとえば ⑥ また

問三 ② 世界がうらやむような農業といえるのはなぜか。最も適切なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① ヨーロッパは人口密度が低く、イネを育てることができるから。
- ② イネはムギより生産性が高く、少ない農地でも多くの人を養うことができるから。
- ③ ヨーロッパでもイネが撒いた種子に対し、ムギよりも多く収穫できるから。
- ④ 十五世紀からヨーロッパに比べ日本は農業の技術が優れていたから。

問四 ③ ① たくさんの方が集まるのには、色々な条件があるとあるが、筆者が述べる条件として最も適切なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① ムギではなくイネを栽培しているか。
- ② 広大な農地に田んぼをより多く作ることができるか。
- ③ その都市が抱える人たちを十分に食べさせるだけの食料が得られるか。
- ④ すでに多くの人が住んでおり、「田んぼ」というシステムがあるか。

問五 ④ ① 潜在の対義語として最も適切なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 顕在 ② 存在 ③ 自在 ④ 散在

問六 ⑤ ① やみくも ② 内向的のここでの意味として最も適切なものを選び、それぞれ番号をマークしなさい。

- ① 強引に無理やり
- ② 大きく広く
- ③ 前後の見境なく
- ④ 思慮深く

⑥ 内向的

- ① 興味や関心が自分の内面に向かうさま
- ② 自らの領域の中に閉じこもるさま
- ③ 外見よりも内面を磨く事を重視するさま
- ④ 内部での出来事の調整が得意なさま

問七 ⑦ 日本の田んぼではイネが作られていないのはなぜか。最も適切なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 水資源を奪い、豊かな土地を荒廃させてしまうから。
- ② 日本人が米を食べる量が減ってきているから。
- ③ 人口が増え、農地が足りなくなっているから。
- ④ 日本の田んぼが荒れ果てているから。

問八 ⑧ 庄トウと同じ漢字を使う言葉として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 目標にトウ達する
- ② 富士山にトウ頂した
- ③ 会社のトウ産を嘆く
- ④ トウ該の人物に話を聞く

問九 欧米の農業と日本の農業の特徴について説明したものととして最も適切なものを選び、番号をマークしなさい。

- ① 欧米の農業は規模を拡大した農業経営が求められるが、日本は少ない農地で手をかけずに多くの食料を得ることができる。
- ② 欧米の農業では播いた種子に対して二〇倍前後の収穫量であるのに対し、日本では一一〇～一四〇倍の収穫量を得ることができる。
- ③ 欧米の農業は広大な土地を活かし、農地を広げ収量を増やす努力をしてきたが、日本は狭い農地でいかに効率よく収量を得るかという工夫を重ねてきた。
- ④ 欧米の農業は豊かな土を荒廃させ、砂漠化を進行させてしまいが、日本の農業は水資源を守り、自然を守ることができる。

問十 筆者の主張と合致するものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 世界の農業によって環境が破壊されている現状において、日本の農業をもっと活かし環境を守っていく取り組みが求められている。
- ② 異常気象による不作が続く現状において、ムギより収量の多いイネを用いた日本の農業が重視されるべきである。
- ③ 世界的に農地や食料が足りていない現状において、日本は効率よく生産できる農地を持っているのにもかかわらず、それを上手に活用できていない。
- ④ 外国から安い米が輸入される現状において、日本人はもっと米を食し農家を守ることで田んぼを活用する必要がある。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

石あつめは、その後もつづいた。

トシは飽きてしまったのか、家で本を読むようになったけれども、賢治はやはり毎日のごとく川や山を涉獵^{しやうりよう}した。ときには同級生と遊ぶ日もある。トシと本を読むときもある。しかし基本的にはひとりで石、石、石を追ひ求めるまま五年生の春をむかえた。

或る日、賢治が魚屋の前を通ったとき、店先の棚に目をとめて、

「あ、さんが来たのすか」

と言ったら、魚屋のおかみさんが仰天して、

「あの賢さんが、石の話をしなかった。あしたは雪だじや」

と亭主の袖をひっぱったという。こんな話を聞くにつけ、

(だいじょうぶか)

と、政次郎ははらはらしている。ここまで来ると、もはや好奇心などという生やさしいものではなく、何かしら病的な、

(執着か)

案じつつ、しかし同時に、この頭のいい長男の、

(助けになりたい)

とも思うのだった。

われながら矛盾しているが、このころにはもう政次郎も納得している。父親であるというのは、要するに、^①左右に割れつつある大地にそれぞれ足を突き刺して立つことにほかならないのだ。いずれ股が裂けると知りながら、それでもなお子供への感情の矛盾をありのまま耐える。ひょっとしたら質屋などという商売よりもはるかに業ふかい、利己的でも利他的な仕事、それが父親なのかもしれない。とにかく、石である。

(助けよう)

思い決めたら、ただちに実行するのが政次郎である。関西出張の帰りに東京へ寄り、大きな本屋でいろいろと鉱物学の入門書を買こ

んで汽車のなかで読んだ。ぶつぶつと声に出して読んだのでほかの乗客には迷惑だったろう。それから、たまたま花巻の町会議員になったので、その人脈を利用して学者の家の門をたたいた。その上で、或る夜、

「賢治」

咳払いして、思いきって切り出したのだ。

例によつて夕食ときである。賢治は日中は家にいないし、夜も宿題がふえたから、父子でまとまった会話ができるのはこの片時しかないのだった。賢治は箸を置いて、

「はい」

「花巻が、なすて宝の山か知ってるが」

「え？」

「え？ ではない。石の種類が豊富な理由だ。お前には興味ある話だろう」

われながら、^②どうしても叱り口調になつてしまふ。賢治はよほど意外だったのか、うさぎが巣穴から外をうかがうような目つきで、

「存じません」

「教えてやるべが」

政次郎は、付焼き刃の知識を披露した。^③花巻は地勢的には南北に走る二本の山脈のあいだに位置するが、その二本は、じつは生まれ年がうんとちがう。西の奥羽山脈は新生代、東の北上山地は古生代と中生代。

いふなれば小学生と老人みたいなもので、地中の様子もまったく別。それを北上川がそれぞれの山から支流をあつめて南下してくるものだから、花巻の人は、いわば勞せずして地質時代を一網打尽にできるわけだ。

「わかつたか、賢治」

話しながら、

（わかつた）

と痛感したのは政次郎のほうだった。

地質学のことではない。自分はつまり、

(うらやましいのだ)

賢治が。あるいはそんな一銭にもならない純粋な世界にのめりこむことのできる子供の毎日が。

実際、この一か月間のにわか勉強はなかなか楽しいものだった。政次郎が知識をすっかり吐き出してしまつと、賢治はぺこりと頭をさげ、

「ありがとうございます」

食事にもどつた。特に感想などは言わなかった。政次郎はなかば放心したけれども、食事のあと、

「お父さん」

賢治のほう呼びかけてきた。押入れの前に立ち、来てほしそうな顔をする。政次郎が行くと、賢治はくると背を向け、押入れの襖ふすまをあけて、なかから黒い風呂敷づつみを出した。

こちらを向いて正座し、畳の上に置く。むずび目をとく。あらわれたのは、百個ほどの石の山だった。

みなよく洗つてあるのだろう。砂や土の飛散はない。政次郎は卓上の石油ランプを手にとり、近づけてみた。反射する色はさまざまで、なかには鏝やすりでよくよくみがいたのか、油を塗つたような光を放つものもある。石という簡単な語ひとつの内容が、

(これほど、豊かとは)

④ 胸の動悸がおさまらない。が、口では邪険に、

「ばか」

「え？」

「これでは集めただけではないか、賢治。何千、何万あつたところで山のりすの巢のどんぐりとおなじだべ、何の意味もね。これをまこと有用たらしめるには、台帳が要るのだ」

「台帳……」

「もう作つたか」

「いいえ」

「作れ」

政次郎の意識は、完全に商人にもどっていた。質屋とは、かなりの部分が地味な帳簿仕事なのである。金銭の出入りはもちろんながら、たとえば客から預かった質種も、京都で仕入れた古着も、いちいち筆と紙で記録する。一点一点について番号をふり、名前をつけ、いつ、どこで、誰から手に入れたかを書く。類似の品と特にちがう点があれば念入りに書く。そうしてはじめて物品は分類、整理が可能になり、単なる物品をこえて役に立つ武器となるのだ。ちょうど人間集団において、単なる **X** 合の衆にすぎないものが、目的と、機能と、体系とをそなえた「**Y**」となるがごとく。

「わかったか、賢治」

立ったまま、政次郎は声を投げおろした。

賢治は、真剣な顔でうなずいている。叱られるのが嫌だから、ではないだろう。心から興味があることは首肯のふかさにも見てとれた。いつのまにか、トシとシゲが賢治のとなり正座している。兄とおなじ表情で何度もうなずいている。賢治は真剣な顔のまま、

「台帳は結構です。なんども」

思いもよらぬ方向へ話を進めた。

「なんども台帳をつけるにしても、お父さん、現物との対照はどうします。お店の品なら面倒がねえべ。番号を書いた小さな紙を、着物なら襟へさしこめる。時計ならこよりで結びつけることができる。石には無理だよ」

「むむ、それは」

政次郎は、ことばにつまった。見当もつかぬ。

(どうすべ)

もつとも、こういうときは対処法がある。賢治にむつかしい質問をされたとき、政次郎はいつも、そんなのは馬鹿でもわかると言わんばかりの澄まし顔をして、

——お前はどっと思っ？

言い返すのが条件反射のようになっていたのだ。

賢治は、まじめな子だ。そのまま考えだしてしまふ。その隙にこっちは内心でじっくり案を練ればいいのである。今回も、

「お前はと思う？」

通用しなかった。賢治はまるで三歳児のような目をかがやかせて、

「便利なものがあるそうです」

「な、何だ」

「標本箱」

⑤ 最初から話をここへ落としこむ気だったのだろう、賢治はすらすらと説明した。標本箱というのは手のひらに載るほどの小さな紙箱で、上ぶたはなく、底に罫が引いてあり、番号、名前、蒐集しゅうしゅうの日時、場所、情況などが書きこめるようになっていた。書きこめば、石のひとつひとつを文字によって識別することができるわけだ。

小箱とは別に、大箱も市販されている。小箱がきつちりと縦五列、横四列におさまる大きさ。これを使えば大箱そのものが台帳の機能を果たすともいえる。もつとも自分は、手間をいとわず、あらためて一冊の帳面にそれをずらりと書き出すつもりだが。

「お父さん、買ってください」

賢治は立ちあがり、にわかに顔を寄せてきた。政次郎はぶいと横を向いて、

「あ、ああ」

「理科の勉強だじゃ。学校でも役立つ」

「……………」

「お父さん」

「……………」

半月後、政次郎は、古着の仕入れのため京都へ行った。

仕事のあいまに京都帝国大学ちかくの実験器具製作会社の代理店へ入り、われながら蚊⑥の鳴くような声で、

「標本箱を、五百ください」

「はあ」

「それを入れる大箱も。あるかぎり」

値段は予想どおり、紙箱のくせに信じがたいほど高価だった。大学にしか需要がないせいだろう。

（仕方ね。あい仕方ね）

鉄道便で花巻へおくる手続きをしながら、政次郎は、何度も自問した。これで子供のただの石あつめに目的と、機能と、体系とがそなわる。賢治の肥やしになる。

ほんとうになるか。むしろ賢治を、

（だめにするか）

答は、わからない。

理解ある父になりたいのか、息子の壁でありたいのか。ただ楽しくはある。窓の外の夜空を見ながら、^⑦政次郎は、気づけば鼻歌をうたっていた。

（門井慶喜『銀河鉄道の父』）

問一

① 左右に割れつつある大地とあるが、この部分に表れる政次郎の思いとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 石あつめはくだらないことだという思いと、自分も石の魅力を追求めてみたいという思い。
- ② 現在の賢治の行動を心配する思いと、純粋に賢治が関心事を追及することを助けたいという思い。
- ③ 父親として子供が無事に自立してほしいという思いと、いつまでも手助けをしてやりたいという思い。
- ④ 賢治に自分の後を継いで質屋になってほしいという思いと、子供には自由に育ってほしいという思い。

問二

② どうしても叱り口調になってしまうとあるが、その理由として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 頭の良い賢治に少し勉強しただけの知識を話すことで、父親としての威厳が失われないかを恐れているから。
- ② しつかりとした地質学の知識もない中で、やみくもに石を集めている賢治に対して怒りを感じているから。
- ③ 賢治と話ができる機会も少ない中で、威厳を失わぬように石の知識を伝えることに緊張しているから。
- ④ お互いに多忙で話もできていない中、父親として賢治の教育に思い悩んでいることを隠したかったから。

問三

③ 付焼き刃の意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 前々から準備した
- ② 一時しのぎの
- ③ 世間に広く知られている
- ④ 考えられる中で最高の

問四

④ 胸の動悸がおさまらないとあるが、この時の政次郎の感情を説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 石は全て同じだというイメージを持っているが、賢治の見せてきた石の色や多彩さに心を打たれ胸をおどらせている。
- ② 賢治の洗った石の思わぬ美しさに感動をし、この石をいかに有用なものにしていくかを考えて興奮している。
- ③ つまらないものだった石が磨かれて美しくなるのを見て、賢治もいつか立派な人間になれるという希望を抱いている。
- ④ 賢治の集めた石の数々を目の当たりにして、このようなことに時間を費やしてしまう賢治の将来に不安を感じている。

問五

X に当てはめる動物の名前を次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 猿
- ② 犬
- ③ 鳥
- ④ 馬

問六

Y に当てはまる語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 政治
- ② 文化
- ③ 経済
- ④ 組織

問七

⑤ 最初から話をここへ落としこむ気だったとあるが、この部分の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 学校の勉強で使用するという嘘をついて、個人的に欲しかった標本箱を買ってもらおうとしたこと。
- ② 石を分類するための標本箱の必要性を父親に納得させ、それを購入させるように仕向けること。
- ③ 父親にうまく自分の将来性を売り込むことで、目的のものを買ってもらうように誘導した。
- ④ 父親のいつもの反応を逆手に取ることで、いつもやり込められてきた父親に見事に反撃したこと。

問八

⑥ 蚊の鳴くような声とあるが、この時の政次郎の感情を説明したものとして最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 子供のために高価な実験器具を購入するほど教育熱心な人間であることを悟られないようにしている。
- ② 有用性の低い標本箱に高いお金を払っていることへの不満を、賢治のためになるという理屈で抑え込んでいる。
- ③ 大学にしか縁のないような高価な実験器具を、自分のような田舎の質屋に売ってくれるのだろうかという不安に思っている。
- ④ 標本箱の購入が本当に賢治のためになるかという迷いと、本来自分に縁のない場所で買い物することへの気後れを感じている。

問九

⑦ 政次郎は、気づけば鼻歌をうたっていたとあるが、この部分の説明として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 賢治の関心事について手助けするべきか、否定すべきか悩みながらも、子供の成長に関わることの喜びを感じている。
- ② 賢治にとって越えるべき壁でありながらも、賢治のためになることは積極的に行うことができている自分に満足している。
- ③ 標本箱を買ってやるかやめておくかを悩んだが、購入した標本箱を手に喜ぶ賢治の姿を想像して嬉しさを感じている。
- ④ 思い通りにならない賢治を叱るべきかどうかを悩み苦しんで、賢治がまだかわいかった昔のことを思い起こしている。

問十

本文の内容に合致するものを次より選び、番号をマークしなさい。

- ① 独特の感性を持つ賢治に悩みながらも、威厳を保ちつつ支援を惜しまずに接する父親の姿が描かれている。
- ② 賢治と政次郎のやりとりを中心として、計算高く賢い息子と威厳ある父親との対立の様子が描かれている。
- ③ 政次郎の心の声をかっこ付きで書くことで、父親としての賢治との触れ合いが面白おかしく描かれている。
- ④ 独特な比喻表現を所々で使いながら、賢治を中心とした家族全員の暖かな触れ合いの様子が描かれている。

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、一部本文の表記を変更しています。）

今は昔、大隈守なる人、国の政をしたためおこなひ給ふあいだ、郡司のしどけなかりければ、「召にやりていましめん」といひて、先々の様に、しどけなき事ありけるには、罪にまかせて、重く、軽く^②いましむる事ありければ、一度にあらず度々しどけなき事あれば、重くいましめんとて、召すなりけり。

「ここに召していて参りたり」と人の申しければ、先ざきするやうにし臥せて、尻頭[※]にのぼりゐたる人、しもとをまうけて、打つべき人まうけて、さきに人二人ひきはりて出来たるを見れば、頭は黒髪もまじらず、いと白く、年老たり。

見るに、打ぜん事^③いとおしくおぼえければ、何事につけてかこれを許さんと思ふに、事つくべき事なし。あやまちどもをかたはしより問ふに、ただ老をかうけ[※]にていらへおる。いかにしてこれを許さんと思て、「をのれはいみじき盗人かな。歌は読みてんや」といへば、「は^⑤かばかしからず候ども、読み候なん」と申しければ、「さらばつかまつれ」といはれて、程もなく、わななき声にてうち出す。

年を経て頭の A は積れどもしもと見るにぞ身はひえにけり

といひければ、いみじうあはれがりて、感じて、許しけり。

人は、いかにも情^⑥はあるべし。

（『宇治拾遺物語』）

※しどけなかりければ……だらしなかつたので

※尻頭にのぼりゐたる人……尻や頭に乗っておさえる人

※しもと……鞭^{むち}

※かうけにていらへおる……口実にして答えている

問一 「召にやりていましめん」 「はかばかしからず候ども、読み候なん」 はそれぞれ誰の言葉か、適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 「召にやりていましめん」

① 大隈守なる人

② 郡司

③ 人

④ 作者

⑤ 「はかばかしからず候ども、読み候なん」

① 大隈守なる人

② 郡司

③ 打つべき人

④ 盗人

問二 いましむる事ありければを単語に分けるといくつに分けられるか、最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 5つ

② 6つ

③ 7つ

④ 8つ

問三 いとおしくの意味として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 気の毒だ

② 腹立たしい

③ かわいい

④ うらやましい

問四 いかにしてこれを許さんの現代語訳として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① どうして許せるだろう

② どうしても許せない

③ どのようにして許そう

④ どうかして許してもらおう

問五 A に入る語として最も適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 髪

② 夢

③ 花

④ 雪

問六 情の意味として適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 表情

② 人情

③ 情報

④ 事情

問七 『宇治拾遺物語』の成立時代として適切なものを次より選び、番号をマークしなさい。

① 奈良時代

② 平安時代

③ 鎌倉時代

④ 室町時代

